

## (付録)ISCの議論から出てきた課題例

ISCの議論から浮かび上がってきた課題を以下に示す。

これらの課題を整理しなおし、高等研としてとりあえず集中的に検討すべき

課題として3つに絞ったものを第4章に示した。

### 1 脱成長

幾つかの先進国で、20世紀の共通概念であった「成長」という考え方を超えた「脱成長」という概念が議論されはじめているが、それらを精査し、我々として何が提案できるかを検討する。

### 2 江戸時代、そこからの冒険の変遷

日本の精神史・文化史を踏まえて、持続可能社会の実現に向け、日本から何を世界に提言できるかを検討する。特に江戸時代の社会生活、町人文化の中にある資源循環的思考、生活道徳、また寛容と互惠の精神などは、これからの有限の地球上で共存していくためのヒントとなるのではないかという点に着目。それ以降、明治維新から日本が辿った道を振り返り、21世紀においてアジアの近隣諸国との平和共存の将来をどのように構築するかを考え、グローバルな世界において日本文化の持つ力を積極的に評価し、将来の人々の生活の安寧に繋いでいくにはどうすればよいかを議論する。

### 3 ELSI (科学技術が及ぼす倫理的・

#### 法的・社会的課題)

科学が複雑な社会課題を対象として、理工系・人文系の協調や、トランス・サイエンスな取り組みを繰り広げる場合にあたっての交点として、ELSI (Ethical Legal Social Issues) を取り上げ、共通のプラットフォーム、融合したモデルを策定する。

### 4 インバランス下のバランス

地球全体の将来を考えた時に、「経済成長に依拠しない幸福観や社会のあり方」が必要な国・地域と、旧来からの資本主義的な成長志向を継続していく国・地域が併存するというインバランス下で、よいバランスの中に地球全体を残せるモデルを検討する。例えば、「エネルギー資源」、「医療資源」などのインバランスや格差を取り上げ、専門的に掘り下げていく。

### 5 生産消費活動

有限資源の地球において現在のようなグローバル資本主義的企業活動をそのまま続けていくことはできないし、その結果生じる貧富の差を放置してはならない。では、どのような生産消費活動が考えられるかを議論する。

## 6 持続不可能な個別課題への対応指針

地球温暖化、水、食糧、資源、人口、エネルギーなどの困難な課題を持つ地球の将来を立て直すため、これら諸課題における対応の方向性を議論する。これらについては、各所で様々に検討が進捗しているが、ここでは、新たなモデルの適用や、地球上のインバランスへの対応を前提とし、グランドデザインの提示を目指す。

## 7 目標達成の進捗を図るためのKPI設定

今後の地球社会が協調をもって節度ある発展が果たしているか、人類が超えるべき課題の先にあるべき未来が築けているのか、それらの目標達成をモニタリングするためのKey Performance Indicator (KPI)を検討し、進捗の把握や目標の共有方法について議論する。

## 8 幸福のあり方

20世紀は工業化の振興を主軸に展開されたこともあり、物質的な豊かさが幸せをもたらすとの認識が強くなり、GDPのような経済的・財務的価値をはかる指標が幸せをはかる指標のように見られた。持続可能社会における幸福のあり方を議論すると共に、Quality of lifeや文化的リテラシーの向上など、新たな幸福の概念構築に必須の要素につき議論する。

## 9 人類的・地球的課題の社会への

### 訴求のあり方

人類や地球の抱える課題は、既に深刻なレベルに達しているにも拘らず、「不都合な真実」として取り扱われ、「ゆでガエル」化した人類の積極的な解決行動は希薄である。そこで、このままでは人類社会が崩壊の道を辿ること、その深刻さを明確に打ち出し、解決のための努力が必須であることを強調し、訴求していくため、具体的に示す議論・研究を進める。

## 10 社会への実装のための具体的な

### デザインング

ISCにおける議論を、具体的かつ早期に社会実装するための総合的な施策群を創り込む。国や民族の違い、多様でレベルも様々な文化的リテラシーを超えて、世界中の人々に理解され、実践されるよう、「共感→問題定義→プロトタイプ→テスト」といったプロセスを繰り返し、世界観を共有しながら、人間の多様性、地球の有限性に根差したソリューションを作り上げる。

## 11 グローバルプラットフォームとの連携の

### ための調査、共同テーマの策定

グローバルな活動を展開している世界的な財団等と連携していくため、徹底的にそれらの活動内容を調査すること、さらに、それらを超えた立場、もしくは考え方をもち、新たな共同テーマを構築、提案し、具体的な連携に持ち込む。(本テーマは今年度ISCの中で先行して検討に着手)